

# 天然記念物

## 津田明神の備北層群と粗面岩（県天然）

津田明神山には中生代の流紋岩と新生代の備北層群・粗面岩・玄武岩がみられる。粗面岩は県内で初めて発見された岩石で、備北層群からは二枚貝・まき貝等の化石が産出する。（大字下津田◎No.163）



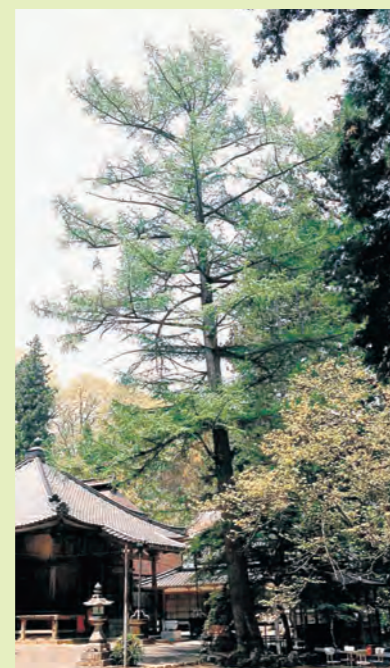
## ▲山中福田のツバキ（県天然）

胸高周囲1.85m、樹高約7m、樹冠の大きき約13m。十数本の枝がキノコ状に生い茂っている。県内北部に自生するツバキとしては最大級。推定樹齢は500年とも1400年ともいわれる。（大字山中福田◎No.142）



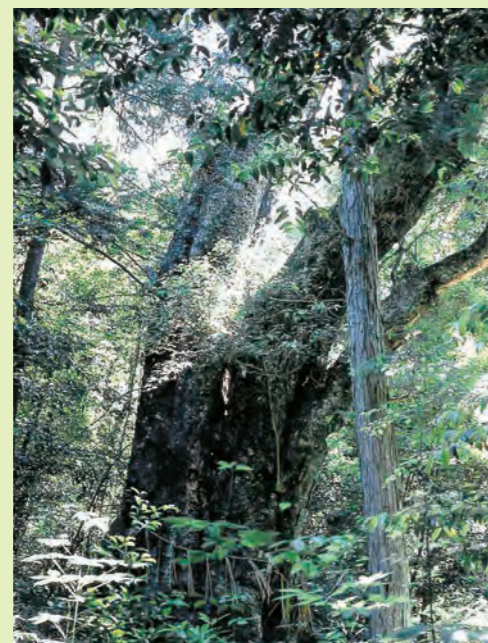
## ▲男鹿山スズラン南限地（県天然）

スズランは、中部以北の山や原野に自生するが、近畿以南はごく稀。男鹿山（写真右・標高633m）の山頂付近の北側斜面にあるスズランは、自生のスズランとしては最も南部にあるもので、植物分布を語るうえで貴重なものである。（大字青近◎No.1）



## ▲今高野山のカラマツ（県天然）

本樹は、龍華寺境内に植栽されたもので、文化年間に編集された西備名区にも「今高野山の落葉松」として記載がある。胸高周囲2.15m、樹高約30mで、カラマツとしては県内有数の巨樹。（大字甲山・龍華寺◎No.42）



## ▲山中福田八幡神社のウラジロガシ（県天然）

本樹は山中福田八幡神社の社業内にあり、胸高周囲5.25m、樹高約25mでウラジロガシとしては県内有数の巨樹。周辺にはウラジログシ、モミなどの巨木が多く、優れた自然林としての面影が残る。（大字山中福田◎No.171）

# 民俗文化財



## ▲神殿入りー神殿入り・神楽・夜の御幸ー（県無形）

10月の夜半、上津田の7地区から種々の御神灯を運ね、太鼓などの音に合わせて行列をつくり稲生（荷）神社神殿へ向かう神殿入りが行われ、引き続き、奉納神楽・御幸が行われる。「稲荷日記」（1634）の記述の通りに現在も祭が継承されている。（大字上津田◎No.152）



## ▲だんじり仁輪加狂言（町無形）

商業の神・胡社の夏祭りに行われるもので、江戸時代中期に始まったとされる。木造漆塗り・飾り金具付きのだんじりに三味線などの囃子手が乗り、通りを練り歩く。だんじりを数ヶ所で止め、脚本・上演ともに素人による寸劇・仁輪加狂言ーが行われている。（大字甲山◎No.95）

## 一世羅町大田庄歴史館ー

県史跡今高野山の麓、成道院跡に建つ世羅町大田庄歴史館。平安時代に始まり約300年間隆盛を誇った備後国大田庄のことはもとより、大田庄成立に至った歴史的・環境的背景を含めて深く知るため、指定文化財を中心に時代ごとに展示している。  
入館料：大人200円、小・中学生100円 ※団体割引有  
休館日：月・火・木曜日、12月29日～1月3日  
※企画展開催期間中のみ、木曜日開館。  
連絡先：0847-22-4646（世羅町甲山159）



## ▲宇津戸夏の神祇（町無形）

大旱魃に対する雨乞いをしたのが始まりといわれる神事で、延享年間（1744～1748）に起こったとされ、嘉永4年（1851）に獅子舞を加え現在の形になった。種々の踊りや舞が太鼓に合わせて行われる。（大字宇津戸◎No.29）



## ▲黒川神儀（町無形）

黒川早立八幡神社縁起によると、明応年間（1492～1501）にはすでに始まっていたとされる。獅子参りや槍や長刀などによる長物演技が太鼓や笛に合わせて行われ、地域総出の行列が地区を練り歩く。（大字黒川◎No.146）



## ▲万福寺塔婆（県重文）

広島県を代表する南北朝時代の七重層塔で、高さ4.19m、基礎に応安3年（1370）の北朝年号及び石工名等の銘文が見られる。なお、万福寺跡及び付近一帯には、この他に南朝年号入りの宝篋印塔や五輪塔、大乘妙典塔・板碑など優れた石造物があり、地域の歴史を物語っている。（大字堀越・万福寺跡◎No.118）

# 世羅町の文化財

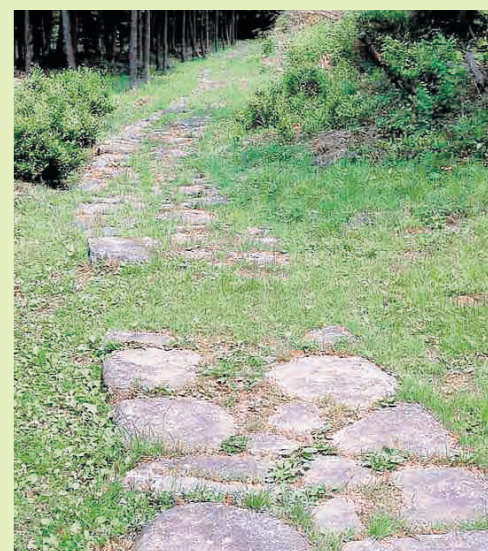
世羅町教育委員会  
世羅町文化財保護委員会

# 史跡



## ▲康徳寺古墳（県史跡）

6世紀後半に築造されたと考えられる県内有数の石室規模を持つ古墳。横穴式石室を持ち、天井石を一段下げることと立柱石を立て片袖にすることにより支室と羨道を区別する。発掘調査時に、須恵器のほか、中世の泥塔や墨書石、仏像の瓔珞などが出土した。（大字寺町◎No.101）



## ▲光友の石量（町史跡）

大永2年（1522）に津田明神山城主の家臣、中村宗太郎光重が構築したと伝えられる。この道は三次往還の一部で、津田から小国に越す約5kmの坂道で、難所のひとつであった。石量の構築は、当時の交通網整備の一環であったと考えられる。現存する石量は、幅1.5m～1.7m、延長約120m。（大字下津田◎No.148）



## ▲神田第2号古墳（県史跡）

横穴式石室に軸石のついた片開きの石扉をつけた特色あるもの。石室の東半分の石材は後世に搬出され、欠損していたが、残った遺構から長さ1.5m、幅2.8m、高さ1.5mの支室規模が想定できる。石扉は現在世羅町世羅郷土民俗資料館に保存されている。石扉を持つ石室の古墳は全国でも他に2例しか知られておらず、石扉が完存のものはこの古墳の他に例がない。（大字堀越◎No.114）



## ▲茶臼山城（町史跡）・社叢（町天然）

この地方を支配した山内首藤氏の城とされる。円形状の独立丘陵上に郭を築き、斜面に横堀や畝状堅堀を配している。土塁は1郭の東に残る。1郭の東西に小さな郭を持ち、それらを取り囲むように帯郭を巡らす。一部が破壊されているが、小規模ながら保存状態は良好で、中世の山城の面影が今に残る。現在は小さな社があり、社叢は町の天然記念物に指定されている。（大字下津田◎No.161、162）



## ▲中村屋敷の土塁と石垣（町史跡）

中世の土居形式の居館跡で、東西70m、南北80m、土塁の延長160mに及ぶ。屋敷正面（南）と西の一部は石垣を築き、屋敷裏（北）には円形に土塁をめぐらす。土塁及び石垣の外は水濘がめぐる。寛永11年（1634）の稲荷日記には津田明神山城主家臣、中村宗太郎光重の屋敷との記載がある。（大字下津田◎No.159）